## 総持寺と私(No.5)

総持寺から峨山道(がざんどう)を踏み分けて高尾山(たかおさん)の奥に古和秀水(こわしゅうど)という総持寺の霊地があります。昭和60年に日本銘水百選に選ばれ，今では周辺地域が整備され道路も全区間舗装されています。昭和30年代，私がまだ小学生だったころ，古和秀水は山奥の田を耕す農家が休憩時にのどを潤す単なるわき水でしかありませんでした。当時，古和秀水のすぐ近くにわが家の田んぼがありました。家からは３㎞ほどの距離だと思いますが，高尾山の細い山道を農具を背負っての行き帰りは今思い出してもぞっとします。秋に刈り取った稲はすべて家族が総動員で背負って家の納屋まで運びました。(当時一輪車もありましたが，高尾山の急な山道は人が背負って運ぶしか方法がありませんでした)

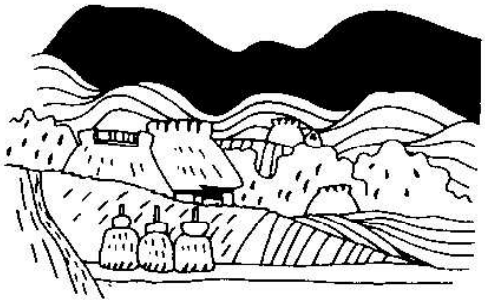
中学生になっても状況は変わりませんでした。さらに悪いことに体力がついた分だけ私の背中の分担量が多くなりました。昼食は必ず古和秀水の近くでとりました。誰が置いたかわからない一部欠けた湯飲みで飲む清水の味は今でも忘れません。

この時，必ず父親が私に語りかけた話があります。

「人や死んだらな，えんま様のところへ連れていかれるんや。えんま様やその人間に**『古和秀水の水を飲んできたか！』**って聞くんや。『飲んできました』って言うたら極楽へ行けるんやぞ。」

子どもながらに「これで極楽へ行ける」と思うとなおのことこの水がうまく思えたもんです。

その父親はえんま様に「飲んできました。息子にも飲ませました。」と答えて極楽に行かせてもらってやがて３０年が経ちます。



合掌